



租税教室と選挙出前授業を実施

選挙管理委員会では、10月から12月にかけて、市内3つの中学校で「選挙出前授業」を実施しました。

そのうち、11月20日、市立下妻中学校で3年生171人を対象に、下館税務署による「租税教室」と、選挙管理委員会による「選挙出前授業」が行われました。

今回の授業は、「税金」の使い道を政策として考え、その政策を「選挙」で選択するという一連の流れを学ぶことで、若い世代が政治や財政に関心を持ち、将来の有権者として主体的に社会に参加するきっかけとすることを目的として実施したものです。

「租税教室」では、暮らしに欠かせない「税金」の仕組みや役割、税がどのような目的で使われているのかについて学び、続いて行われた「選挙出前授業」では、架空の市長選挙を題材に、模擬投票や選挙制度について学びました。模擬投票では、実際の選挙で使用している投票箱や記載台を使用し、生徒たちは投票の手順や選挙の流れを、実際の動きを通して体験的に学ぶ機会となりました。

参加した中学生からは「税金がない世界は想像以上にサービスが低下することが分かって怖かった」「選挙の投票は思ったより手軽にできると思った。18歳になったらぜひ参加してみたい」などの声が寄せられました。

「税金」という身近なテーマと「選挙」を組み合わせることで、生徒たちが暮らしとの関わりをより実感しながら学習でき、将来の有権者としての意識を高める貴重な機会となりました。

図 総務課

(上) 下館税務署による租税教室の様子

(中・下) 模擬投票による選挙を体験

災害時におけるコンテナ型トイレ等の提供に関する協定を締結

11月19日、市役所において、吉田運送株式会社（坂東市）と「災害時におけるコンテナ型トイレ等の提供に関する協定」の締結式を行いました。

この協定は、災害時等において、コンテナ型トイレをはじめとする物資の提供を受けることで、市民生活の早期安定を図ることを目的としており、協定の主な内容は、市の要請により、吉田運送株式会社から取扱い可能なコンテナ型トイレ等の物資の提供を受けるものです。

吉田代表取締役は、「災害多発時代において、モバイル性・多用途性に優れたコンテナを、効率的かつ環境負荷の少ない備蓄・供給体制のため活用していただきたい」と述べました。

図 消防防災課



左から吉田代表取締役、菊池市長



備える一歩が、まちを守る。

下妻市総合防災訓練

11月22日、令和7年度総合防災訓練が行われ、約1300人が参加しました。

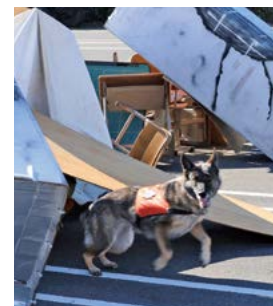
早朝、避難所運営訓練が下妻小学校、総上小学校、上妻小学校、下妻中学校の4校で実施され、防災士による講演や、自主防災会による災害時の対応確認が行われました。

その後、場所を移し、イオンモール下妻をメイン会場に、関係機関や自主防災会が集まり、救出・救命・搬送訓練などを実施し、災害時の対応について能力向上を図りました。

今年は、県内初となる日本救助犬協会による捜索訓練が行われました。災害救助犬ががれきの中から要救助者を発見する様子に、多くの参加者が感心していました。

また、会場内の体験コーナーでは、組立式トイレなどの防災資機材の展示や、救助・救命の体験など、買い物客や親子連れなど多くの市民が参加しました。

下妻市では、今後も継続的な訓練を通じて地域の防災体制を強化してまいります。



災害救助犬が要救助者を発見
犬が優れた嗅覚を使って、要救助者を素早く発見する様子が披露されました。



自主防災による救出訓練
負傷者を安全に搬送する方法や周囲の状況確認など、初期救助に必要な手順を実践しました。



災害時の対応確認（上妻小学校）
参加者それぞれが自分の役割を意識し、緊急時に落ち着いて行動できるよう理解を深めました。



防災士会による講話（下妻小学校）
災害時の自分や家族を守るための初期対応、日頃の備えのポイントなどを分かりやすく解説しました。